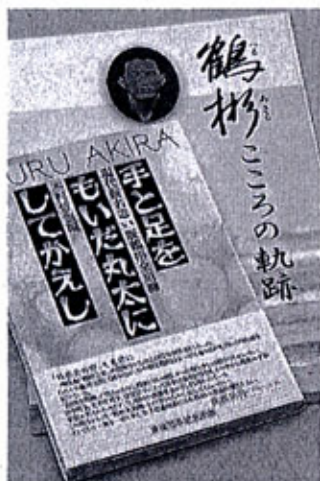


## もう一人のプロレタリア作家



鶴彬の「全川柳」と映画パンフレット

戦前にプロレタリア・反戦文学にかかわり、1938年に29歳で獄死した川柳作家の鶴彬(つる・あきら)について再評価の動きが出ている。生誕100年にあたる今年、生涯を描いた映画の公開や関連本の出版などが相次ぐ。プロレタリア文学の小林多喜二の小説「蟹工船」が若者らの支持を集める中、「時代と闘ったもう一人の作家にも注目を」と関係者も期待の声を上げている。

## 鶴彬再評価の動き

## 生誕100年、映画や本

「行き話まり感が漂う現代だからこそ映画化すべきだと思った」。生誕100年を記念して作られた映画「鶴彬—こころの軌跡—」の神山征二郎監督(67)は話す。2千

「当たり前前」のことが言えなかった時代に川柳で訴えた勇氣に感動した(60代女性)、「現代が鶴彬の生きた時代と重なって見える(20代女性)」。試写会で寄せられた感想に、平野寛プロデューサ

2007年には現代仮色を強めていく。30年に21歳で徴兵されたが、反軍的として軍法会議にかけられ、翌年に治安維持法違反容疑で逮捕。出所後に創作活動を再開したが、37年に同容疑で再逮捕され、警察署に留置中に赤痢にかかり死去した。

名遣いの全集「手と足をもいだ丸太にしてかえし」も出版された。一方で、「再評価はまだ早い」との声もある。全日本川柳協会(大阪市)の本田智彦常務理事(82)は「川柳はユーモアが大事で、過激なほど作りやすい。思想が込められた鶴の句はあまり文学的とは言えない」と厳しい見立て。ただ「いい句も多く、才能はあった。映画の反響が興味深い」とも話す。

▼鶴彬(本名「喜多一」) 働いた経験から、プロレタリア川柳に傾き始める。「枯れ芝よ! 団結を軍的として軍法会議にかけられ、翌年に治安維持法違反容疑で逮捕。出所後に創作活動を再開したが、37年に同容疑で再逮捕され、警察署に留置中に赤痢にかかり死去した。

10代後半から川柳雑誌などに作品を発表。「暴風と海との恋を見ましたか」など初期は叙情的な作風で知られたが、18歳の時に大阪の町工場で労働者として

「当たり前前」のことが言えなかった時代に川柳で訴えた勇氣に感動した(60代女性)、「現代が鶴彬の生きた時代と重なって見える(20代女性)」。試写会で寄せられた感想に、平野寛プロデューサ

名遣いの全集「手と足をもいだ丸太にしてかえし」も出版された。一方で、「再評価はまだ早い」との声もある。全日本川柳協会(大阪市)の本田智彦常務理事(82)は「川柳はユーモアが大事で、過激なほど作りやすい。思想が込められた鶴の句はあまり文学的とは言えない」と厳しい見立て。ただ「いい句も多く、才能はあった。映画の反響が興味深い」とも話す。

## 反戦・反体制貫き早世